

授業科目	英語教科教育法Ⅱ				実務家教員担当科目	-	
単位	2.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	西原 真弓						
授業概要	この授業では、英語教育分野における全体的な展望が得られるよう最新の研究成果に触れながら、教壇に立った時に役立つ理論と実践および指導技術を学ぶことを目的とします。世界中で使われているさまざまな外国語教授法の理論と特徴を学習した上で、日本における英語教育の歴史的変遷、授業形態の特徴や4技能の効果的な指導技術およびその統合に関して包括的な理解をします。また、情報機器及び教材の活用方法について学び、実際の英語指導に活かせる知識と技術を身につけます。さらに、小中高等学校における英語教育連携の在り方についても自身の考えを深めていきます。						
授業形態	講義・演習			授業方法	反転授業、ディスカッション、模擬授業		
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教師に求められる資質についてある程度自分の考えを持ち説明ができる。 2. 電子黒板やパソコン等の情報機器及び教材の活用方法について理解し、授業において使用できる。 3. 教科書と教材研究について、理論を理解した上で説明することができる。 4. 文法の学習と指導について、理論を理解したうえで説明することができる。 5. 語彙と辞書指導について、理論を理解したうえで説明することができる。 6. 授業運営、教育実習について理解し説明できる。 7. 学習指導案について理解し、説明することができる。 8. 作成した学習指導案に基づき、簡単な模擬授業を行うことができる。 						
理想的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教師に求められる資質について確固たる自分の考えを持ちわかりやすく説明ができる。 2. 電子黒板やパソコン等の情報機器及び教材の活用方法について理解し、授業において効果的に使用できる。 3. 教科書と教材研究について、理論を理解した上で実際に教材分析を行い、説明することができる。 4. 文法の学習と指導について、理論を理解したうえで実際に効果的な文法指導を考え、説明することができる。 5. 語彙と辞書指導について、理論を理解した上で実際に効果的な語彙指導を考え、説明することができる。 6. 授業運営、教育実習について理解し、重要なポイントが説明できる。 7. 学習指導案について理解し、実際に作成することができる。 8. 作成した学習指導案に基づき、簡単な模擬授業を効果的に行うことができる。 						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）			備考			
試験	50%			学習内容の理解度を確認するための試験			
小テスト							
レポート							
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%			部分的な模擬授業			
レポート外の提出物							

その他		30%			レポート発表と授業内ディスカッションへの貢献度						
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	EN34110J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
<p>学習内容を復習し、さらに翌週発表するための教育のキーワードから自分なりに調べて理解を深める。</p> <p>指定された外国語指導法の動画を見て指導法に関する理解を深める。</p> <p>教材精査を行う。</p>										4	
授業計画											
第1回	<p>英語教科教育法Ⅱの授業ガイダンス</p> <p>授業概要を説明し、達成目標、評価内容や方法について説明する。</p> <p>英語科教育の目的、英語教師の資質について考え、話し合いを通して互いの意見を深める。</p>										
第2回	<p>ICTとeラーニング</p> <p>語学教育におけるICTの役割について理解し、効果的な利用の仕方について考える。</p>										
第3回	<p>教科書と教材研究</p> <p>教材研究の意義、教材の評価、教科書の分析について考察する。</p> <p>ICT活用についてレポート発表を行う。</p>										
第4回	<p>文法の学習と指導</p> <p>文法指導の理論的意義とコミュニケーション能力を育成するための文法指導の方法について理解する。</p> <p>教材研究についてのレポート発表を行う。</p>										
第5回	<p>語彙と辞書検索指導</p> <p>学習者がいかに語彙数を増やし、それを「使える」語彙にするかについて考察する。</p> <p>効果的な文法指導についてレポート発表を行う。</p>										
第6回	<p>授業運営・教育実習</p> <p>教師と生徒が互いに学び、啓発しあう授業の運営について考察する。</p> <p>学習指導案の書き方について学ぶ。</p> <p>語彙指導についてレポート発表を行う。</p>										
第7回	<p>外国語教授法の日本の英語科授業への応用</p> <p>外国語教授法の変遷を振り返りながら、日本の教育にどのように応用されているか考察する。</p> <p>授業運営についてレポート発表を行う。</p>										

第 8 回	授業づくりの実践（１） 文法の導入や練習の方法について学び、効果的な導入と練習例を考える。（グループ活動）
第 9 回	授業づくりの実践（２） 効果的な文法の導入と練習の方法について実践発表を行う。（グループ活動）
第 10 回	授業づくりの実践（３） 教科書本文の内容理解の方法について学び、効果的な内容理解の導入と読解活動を考える。（グループ活動）
第 11 回	授業づくりの実践（４） 効果的な教科書本文の内容理解の方法について実践発表を行う。（グループ活動）
第 12 回	学習者論 学習者を理解するために必要な視点を学習する。 授業づくりについてレポート発表をする。
第 13 回	小学校外国語科の授業動画の視聴 主体的・対話的な深い学びとはどのような学びか、また、それを授業内で教員がどのようにサポートするか考察する。 学習者理解・学習者としての自己分析についてレポート発表をする。
第 14 回	中学校外国語科の授業動画の視聴 社会的話題について 4 技能を統合的に使いながら授業を組み立てるとどのような授業になるか考察する。 小学校外国語活動・外国語についてのレポート発表をする。
第 15 回	内容理解度を確認するためのテスト及び総括
テキスト	『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦編著（2018）（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（平成 29 年）（文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』（平成 30 年）（文部科学省） （上記 3 冊はすべて英語教科教育法Ⅰで使用した教科書なので新たに購入は不要） その他、教員が適宜に資料を配布する。
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（平成 29 年）（文部科学省）

課題に対するフィードバックの方法	試験は採点して後日返却する。 模擬授業は終了後に口頭でコメントをする。 レポート発表や授業内ディスカッションへの貢献度については授業内でコメントする。
学生へのメッセージ・コメント	<ol style="list-style-type: none">1. 「英語で授業を行う」ために英語力強化を目指し、継続的に英単語力・英文法力・構文力を身につけるように努めること。(英検や TOEIC を積極的に受検すること)2. 毎回、次時の講義で取り扱われる範囲の内容を事前に熟読の上、教科書を予習して来ること。3. 英語教育に関する新聞記事や時事問題には日頃から敏感になり、情報収集に努めること。4. 英語教師としての資質を磨き高めるため、日頃から自己研鑽に努め、ボランティア活動や英語指導には積極的に参加すること。